

指定管理者評価表

様式1

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
大仙公園日本庭園	
(2) 施設の設置目的	
市民に憩いの場を提供するとともに文化を創造し、もって公共の福祉の増進に資するため設置	
(3) 所管部局	
建設局 公園緑地部 大仙公園事務所	
(4) 指定管理者名	
南海・田中・大阪造園共同企業体 (南海造園土木株式会社、株式会社田中造園土木、大阪造園土木株式会社)	
(5) 指定期間	
平成26年4月1日から平成31年3月31日まで(5年間)	
(6) 主な事業	
1. 入場料及び和室使用料の徴収、入場者の応接、券売業務、自主事業の計画・実施、使用許可事務 2. 園内の施設・設備・樹木の維持管理に必要な維持管理・保守点検・清掃・警備業務等 3. 園内施設・設備等の軽微な補修等	
(7) 有料施設の有無	
有(利用料金制)	
(8) 公募・非公募の別	
公募	
(9) 主な利用者	(10) 市内における受益対象者数
対象者特定無	不特定多数
(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標	
無	

2 管理運営状況

(1) 特筆すべき事項(地域貢献等の実績、取組、成果等)

28年度と30年度の観桜期がずれ込んだ影響もあるが、前年度と比較して、利用者数、利用料金ともに大幅に増加した。外国人入場者数についても年々増加傾向にあり、それに伴い各国語のパンフレットの用意のほか、音声ガイドシステムを4か国語対応にするなどの来園者サービスを行っている。例年通り、夏季に平日無料期間を一ヵ月設けて地域の子育て世代の利用を促し、気軽に得られる憩いの場を提供できた。また、市立中学校の職場体験を受け入れる等地域貢献に寄与した。

(2) 利用者サービス

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
指定管理者名	南海・田中・大阪造園共同企業体	南海・田中・大阪造園共同企業体	南海・田中・大阪造園共同企業体	南海・田中・大阪造園共同企業体	南海・田中・大阪造園共同企業体
ア 利用者数 (人)	98,334	93,302	92,800	101,907	/
イ 稼働率 (%)	—	—	—	—	
ウ 利用者満足度 (%)	87	88	90	87	
「利用者サービス」における市による状況分析	前年度比で、無料入園者についてはほぼ横ばいであったが、有料入園者は前年度より27%増加の41,516人となった。また、自主事業のイベントを16回実施した。その中でも定例化しているイベントについてはイベント目的の来園者数を概ね伸ばしており、来園者サービスの向上に努めている。 そのほか、市立中学校等の職場体験を受け入れる等地域貢献に寄与した。				

(3) 収支状況(単位:円)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
ア 収入	指定管理料	49,600,000	49,300,000	49,000,000	48,700,000	48,400,000
	利用料金	11,170,001	12,606,688	13,697,817	17,554,302	13,800,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	7,554,883	6,975,558	6,632,825	7,774,158	6,800,000
合 計		68,324,884	68,882,246	69,330,642	74,028,460	69,000,000
イ 支出	人件費	26,291,600	24,543,400	27,967,700	28,035,000	28,716,000
	委託料 ()内は総支出額に占める委託料の割合	11,642,710 (17.7%)	12,431,693 (19.7%)	11,449,672 (16.8%)	11,353,848 (16.8%)	7,320,000 (10.6%)
	その他経費	27,735,140	26,221,401	28,959,336	28,369,955	32,964,000
合 計		65,669,450	63,196,494	68,376,708	67,758,803	69,000,000
利用者一人当たりの支出額		668	677	737	665	—
ウ 収支差額		2,655,434	5,685,752	953,934	6,269,657	0
エ 市への納付金の額		—	—	—	—	—
オ 徴収委託の場合の徴収額		—	—	—	—	—
「収支状況」における市による状況分析		収入については、平成28年度および平成30年度の観桜期が平成29年度にずれ込んだ影響により前年度から25%増と大きく増加した。指定管理料も年間30万円減を継続している。なお、利用料金収入とその他の収入についてはほとんどの項目について増加している。支出については、節約に努めてはいるが、施設の老朽化に伴い施設の修繕料が増加した。				

3 目標管理、評価等

(1)適正な管理運営の確保

目標管理	評価の指標	自主事業の開催件数	(設定理由) 自主事業イベント等の開催に伴い施設運営の向上が図られるため。
	目標	7回以上	(設定理由) 年間を通した妥当な開催可能回数
	実績	16回	(分析) 夜間演奏会や茶会などの定例化しているイベントにおいて、イベント目的の来園者数を概ね伸ばしており、認知度が向上している。 ※目標未達成時は詳細な原因分析 また、パネル展など、新たな自主事業にも取り組み、新たな集客や満足度の向上などの努力が見受けられる。
自主事業実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ①茶道体験 ②呈茶体験 ③庭園講習会 ④堺伝統講習会 ⑤庭園茶会 ⑥春のイベント ⑦夜間(イベント)特別開園 ⑧冬のイベント ⑨写真コンテスト ⑩花苗販売 ⑪物品販売 ⑫自動販売機設置 ⑬夏休み入園無料サービス ⑭子供向けイベント(紙芝居上演) ⑮年中行事 ⑯パネル展示 			

平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項	トイレの段差による転倒事故が発生したが、「また治ったら来園したい」と相手方から連絡があったことから適切かつ真摯な対応がなされたと思われる。また、再発防止策としてテープによる段差の明示を行っていた。
--	--

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	園内橋の老朽化に対する指摘と水質改善の要望がある。園内橋については安全性を踏まえて今後の修繕対象となるか検討を行う。また水質改善については池泉濾過ポンプの濾過能力が喪失していることが判明し、応急措置として外付け排水ポンプによる物理的な水替えを実施している。なお、濾過ポンプ修繕については今後の対応について協議が必要である。
------------------------------	---

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	A		A
	具体的な理由	多くの人へ来園機会を提供すべく、昨年度より1回多く自主事業を開催し、かつ市が求める水準の2倍以上の事業を実施しているため。	自主事業は、市民の声を取り入れて開花植物のない閑散期に季節を感じていただけるような自主事業を開始し、昨年度より1件増加した16回開催となっている。また、イベントアンケートの結果から高い満足度を得ているとわかる。	
対応策等	より効果的な事業となるよう検討を重ねているが、原則として市民へのサービスという位置づけで実施しているため、利益回収を前提としていない。商圈・立地条件等を鑑みると、現状の各種制度・設備の大きな変更なく利益回収は困難であるが、今後も庭園の価値を高めたり、来園機会の提供を目的とした事業を継続する。 その他、他企業との提携や堺市との連携など、様々な形態での事業実施を摸索する。	今後も利用者の声等を反映させ、自主事業の収支等を考慮しながら、年間を通して市民から喜んでいただけるような自主事業に取り組むよう促していくことが必要である。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	指定管理料	(設定理由) 収入の大半を占めるため
	目標	4,580万円以下	(設定理由) 積算による
	実績	4,870万円	(分析) 施設の適正な維持管理及び施設設置目的に適合する施設運営をするための指定管理者による選定時の資金計画上の数値 ※目標未達成時は詳細な原因分析 H26年度初年度より30万円/年の減額
指定管理料の経年比較			
	平成23年度	50,500,000 円	(収支差額11,569,177円)
	平成24年度	50,248,000 円	(収支差額14,192,382円)
	平成25年度	49,997,000 円	(収支差額12,506,552円)
	平成26年度	49,600,000 円	(収支差額 2,655,434円)
	平成27年度	49,300,000 円	(収支差額 5,685,752円)
	平成28年度	49,000,000 円	(収支差額 1,117,849円)
	平成29年度	48,700,000 円	(収支差額 6,269,657円)

収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項	支出面において、節電・節水等に努め、作業効率を図り経費削減に努めた。 新規来園者獲得のための広報の一環として大阪府下の公共施設と広報物の相互配架等の広報活動を実施している。
------------------------------------	---

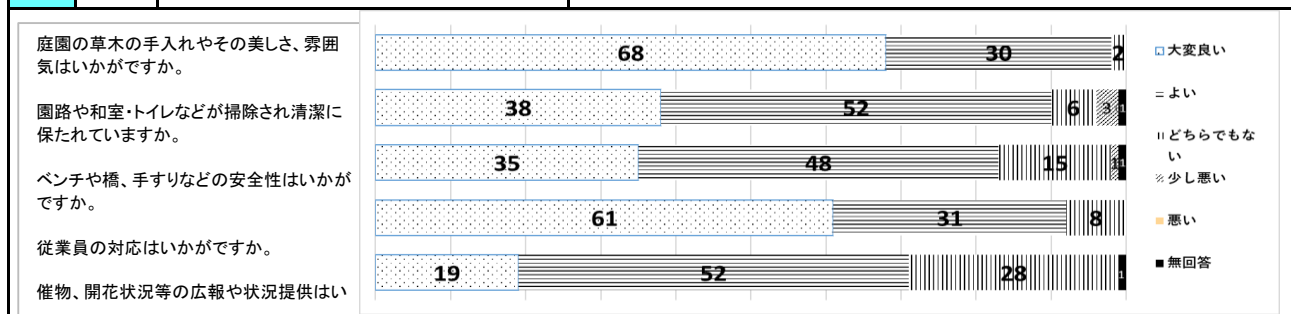
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし
-----------------------	------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	B		B
具体的な理由	<p>市が求める価格を上回ったが、提案した管理運営の内容を実施し、社員への福利厚生（健康保険・年金等）を負担し、健全な企業として利益を得るために最低限必要な経費であったため、妥当な金額であったと思う。また、消費税上昇の際のリスク負担が指定管理者であったことから、実質は指定管理料の提案額を大幅に下げたと認識している。</p> <p>平成29年度の収支差額については、利用者数増加に伴う増収および経費削減が要因である。いずれも経営努力による結果であり、平成28年度の黒字が少なかったことも踏まえると、インセンティブとして適正であると考えている。</p>		<p>目標値を6%超えているが、日常の維持管理を充実し、自主事業等運営に工夫され、利用料金を含む収入を毎年増加させている中、指定管理料を微額であるが、毎年減額しているため。</p>	
対応策等	<p>より安価なルートからの仕入れ、効率的な人員配置、光熱水費の削減を計画に盛り込んだ。その上で利用料金収入をより確保できるよう、利用者数増加に取り組んでおり、着実な成果を上げているため、今後も継続する。</p> <p>なおインセンティブ分については、当企業体構成員の経営状況が良好であることから次年度の修繕や自主事業等に充て、市民還元を行うことを予定している。</p>		<p>赤字の自主事業開催によるサービス向上、指定管理者の企業努力による利用料金の増加及び経費節減と指定管理料とのバランス関係の中で収支差額の市民還元の検討が必要である。</p>	

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

目標管理	評価の指標	利用者数・利用者満足度	(設定理由) 利用者の実態を的確に把握でき、利用者サービスの向上が図られるため。
	目標	年間利用者7万人以上 大変良い・良いが90%以上	(設定理由) 過去の実績を通して
	実績	H29年度年間利用者101,907人 年2回計100人に実施しているアンケート調査結果にて大変良い・良いが87%	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 自主事業等による利用者サービスの向上や広報活動に加えて観桜期の時期のズレの影響もあり年間利用者人数については目標を大きく超えた。利用者満足度については従業員対応や、園路やトイレ等の安全性、庭園の手入れや美しさ等については目標値に達したが、広報や安全性については目標値に達しなかった。老朽化が進む施設の安全性について確認し、様々な年代からの認知を得るよう情報発信に努めるべきである。



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項	平成27年度より大阪府下の公共施設25か所と連携し、広報物の相互配架を実施し、堺市外への広報強化に繋げた。また、ホームページやツイッター等により開花情報等の情報を随時配信している。
--	--

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	演奏会等の継続やお茶会の回数増加の要望に対し、要望や人気のイベントについて定例化を行い対応している。
-----------------------	--

評価等	指定管理者の自己評価	市の評価	
	評価	A	A
	具体的な理由	入園者数について市が設定する水準を大きく上回り(約140%)、かつ前年度より入園者数が増加したため。 しかし満足度について目標より3%下回ったため。	利用者数について、昨年度を上回り、目標についても大幅に上回っている。また、満足度について昨年度を3%下回ったが、目標値に近い値を出している。
対応策等	入場者数前年度比が天候に恵まれたため増加した。施設の性質上、入場者数が天候によって増減することは避けられないが、今後も従来より取り組む高い植栽管理水準を根拠とする抜本的な魅力底上げおよび来園者数増加に努めることで対応する。 情報提供や広報の満足度については課題が残る。現在最も頻繁に情報発信を行っているHPについては、主要来園者層である中高年へのアプローチに弱いため、新聞・TV等に取り上げられるよう所管課・市広報課等関係部課と連携して取り組みたい。	催物や開花情報等の情報提供や広報の満足度が他と比べて比較的低いので、昨年度から行っている情報発信ツールによる情報提供を継続させながら、新たに高齢者向けの情報発信の充実を目指し、満足度の向上に励むべきである。	

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの